

内藤ハウスにおける第1次DX推進計画と実施結果

1. 背景

内藤ハウス(1967年創業)は、「お客様の信頼に応え、環境にやさしく、安心・安全で高品質な商品を提供する」を経営理念とし、お客様の成長を支援するシステム建築・立体駐車場メーカーとして、永年事業を展開してまいりました。昨今、コロナ禍を経てデジタル化の波が急速に進展する中、弊社もDX（デジタルトランスフォーメーション）の重要性を認識し、DX推進プロジェクトに取り組むことで、お客様からのご期待にお応えできる企業を目指してまいります。

2. DX推進の意義

内藤ハウスは、「お客様の成長パートナー」として持続的な進化を実現するため、DX推進に取り組みます。また、パートナー企業とのアライアンスを強化することにより共創のシナジー効果を最大化し、デジタル社会において選ばれる企業となることを目指します。

3. 第1次DX推進プロジェクトの方針

経営者自らが先頭に立ち、以下の目標の実現に向けて全従業員で取り組むこととしております。

(1)全体目標

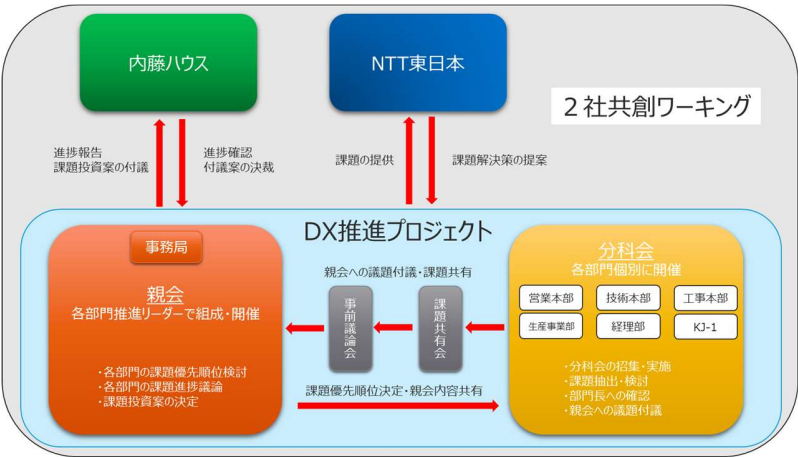
「DX推進を通じて業務をデジタル化することで、持続可能な業務改革を達成する」

- お客様に選ばれる魅力的な企業となるため、商品・サービス・機能の高付加価値化を目指す
- 社内における連携強化及び協力会社との連携強化とその連動性を高める
- 効率的な業務運営体制を構築し、働き方改革を推進する

(2)DX推進に係る取組姿勢

- 社員同士が協力し、トライ＆エラーで変化にチャレンジする
- 全社一貫性のあるシステム構築を目指す
- 社内およびお客様のニーズが高い課題からスピーディに対応する
- 持続的にITリテラシーの向上を図る

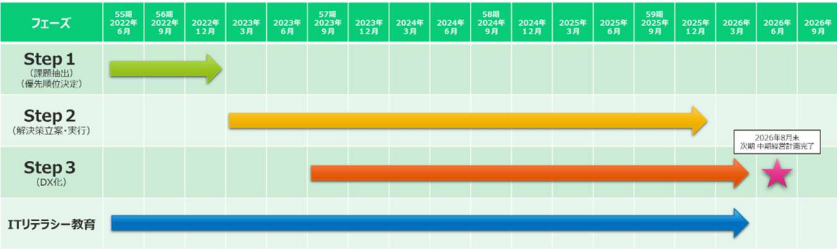
(3)体制



(4)役割分担

① 親会	(目的)	プロジェクトの意思決定機関
	(内容)	全部門の課題優先順位決定、全部門の課題進捗に関する議論、課題投資案の検討、全体調整
	(参加者)	全部門の各リーダー
	(担当者)	事務局
② 事前協議会	(目的)	親会での課題検討や解決策を親会開催前に事前協議し、プロジェクトを効率よく先導する
	(参加者)	NTT東日本様、事務局
③ 課題共有会	(目的)	親会開催前に、事務局と各リーダーが各部門の課題背景について、お互いに認識を合わせる
	(参加者)	各部門リーダー、事務局
④ 分科会	(目的)	各部門内の課題抽出および検討
	(内容)	現場目線での課題抽出、必要に応じて課題を深く検討、親会内容の報告、親会への議題付議
	(参加者)	各部門内のメンバー
	(担当者)	各部門リーダー
⑤ リーダー	(内容)	分科会で課題抽出や検討を推進する。親会で各部門と議論を行い、課題解決を推進する。
⑥ 部門責任者	(内容)	各部門長が主にあたる。課題投資案に対する承認権を持つ。検討事項の情報共有は随時行う。
⑦ 事務局	(内容)	全体最適化を前提に、プロジェクト全体を統括し、各部門と連携する。 親会の運営担当。NTT東日本様との連携担当。 経営層への投資案付議および支店長会議での進捗報告。

(5)全体スケジュール



【内容】
Step1：課題の抽出をスピーディに行い、Step2で取り組んでいく優先順位を決める。
Step2：抽出した課題に対して、具体的な解決策を検討し、実行する。
Step3：効果的な解決策から先行着手していくため、必然的にStep2と同時並行で進めていく。
⇒当初抽出された課題達成目標を、次期中期経営計画の完了時点である2026年8月末とする。

(6)DX ロードマップ推進事項

①工事部門

- 労務安全書類管理デジタル化
- パソコンスペックの向上
- 施工管理クラウドツール導入
- ウェアラブルカメラ導入
- 安全教育ツール導入
- AI 議事録の導入
- 施工 BIM の導入

②営業部門

- 共有データ基盤構築
- パソコンスペックの向上
- インサイドセールス体制構築
- 積算業務の効率化

③設計部門

- 共有データ基盤構築
- ドキュメント共有システム導入
- 設計 BIM の導入

④生産部門

- iPad 導入
- 鉄骨検査デジタルツール導入
- 鉄骨 3DCAD 完全導入
- 工場内 Wi-Fi 環境構築
- 設計 BIM データを軸とする自動生産

⑤経理部門

- 電子帳簿保存システム導入
- 勤怠管理システム導入
- 電子契約ツール導入

⑥経営管理部門

- IT 管理業務のアウトソーシング化
- 基幹システムの高度化
- 社内ポータルサイトの構築
- 生成 AI 活用

○データ活用取組構想

- ① 工事部門：施工管理クラウドツールによって、現場管理データを蓄積し、施工品質ノウハウを継承。
- ② 営業部門：案件データ共有による業務連携および社員育成の高度化。商品別・用途別・地域別等の売上利益データから自社の強み弱みを効率的に把握し、営業戦略上の意思決定を迅速化する。
- ③ 設計部門：設計 BIM によって、事前設定された部材データによる設計効率化と 3D モデルデータの蓄積。
- ④ 生産部門：iPad によってデータを共有し、遠隔業務連携。設計 BIM データ連携による部材の自動生産。
- ⑤ 経理・経営管理部門：生成 AI を活用した分析業務・書類作成業務の高度化。

(7)社員の IT リテラシー向上施策

- e ラーニングの実施（Excel、Word、情報セキュリティ）
- Microsoft ツールの操作教育（Outlook カレンダー、OneDrive、Teams）
- DX マインド醸成勉強会の開催（顧客志向、デザインシンキング）
- 生成 AI 活用事例の共有（Microsoft Copilot 、ChatGPT）

4. 第 1 次 DX 推進による成果と総括

・(1) 第 1 次 DX 推進による成果

① DX ロードマップ達成状況

2024 年に策定した DX ロードマップに基づき、当初計画した 26 件の施策に対する取組結果は以下のとおりです。

DX ロードマップ推進率 （測定方法：6 部門のロードマップ全施策数に対する実行施策数の率）

当初計画施策数 26 件

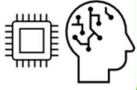


② 経営指標

営業利益率 10%以上（会社予想ベース）



(2) 全社で構築した DX 基盤

Microsoft SharePoint を中核とした情報共有基盤を構築		社内ポータルサイトを全社展開	
生成AI活用ガイドライン制定		Microsoft Copilot全社導入	
情報セキュリティハンドブック制定		工場生産ライン進捗管理システム導入	

当社の DX 推進は、外部パートナー企業との 2 社共創による全社課題の整理と DX 方針の明確化からスタートしました。その後、経営計画と連動し、各部門の協力のもとで DX 施策を推進するとともに、分科会活動を中心とした継続的な改善活動を展開してまいりました。その結果、社内ポータルサイトの全社展開、契約業務や人事労務業務のデジタル化、クラウドを活用した情報共有基盤の構築など、多くの施策が現場へ定着し、全社的な DX 推進基盤を確立することができました。また、導入施策の効果検証や活動状況の共有を継続的に実施することで、各部門が自ら課題を発見し改善へ取り組む意識も組織内へ浸透しつつあります。今後は、外部パートナーとの共創で培った知見を活かし、各部門主体の DX 推進体制へ移行することで、更なる業務改革と価値創出につなげてまいります。

(3) 活用と価値創出への進化

DX活用フェーズへ移行 さらなるDX化への挑戦		業務改革・生産性向上の未来へ	
AI活用による価値創出を推進		各部門主体のDX推進へ進化	

当社の DX 推進は、システム導入や業務環境整備を中心としたフェーズから、有効活用による価値創出を目指すフェーズへ移行しています。今後は、導入施策の定着・効果検証・改善を継続するとともに、各部門主体の DX 推進体制のもと、好事例の水平展開を進めてまいります。また、AX（AI トランスフォーメーション）・BIM をはじめとする重点領域の活用を推進し、整備してきた DX 基盤と生成 AI 等のデジタル技術を組み合わせることで、更なる業務改革と生産性向上につなげてまいります。あわせて、情報セキュリティ基盤の強化や社員教育を継続し、お客様への提供価値向上を図るため DX を経営戦略の重要な柱として推進してまいります。